

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

和洋九段女子中学校 教諭 本多 ゆき

1. 単元名 「多様性を理解し共に生きる社会を考える」～シンガポール修学旅行の学び～

2. 単元の目標

- ・第3学年の修学旅行で訪れるシンガポールについて、国の地理、歴史（成り立ち）、文化などを調べ、文化的・宗教的・言語的多様性についての基礎的な知識を身につける。また、調べた情報を整理・比較・発表するための技能を身につける。 (知識・技能)
- ・図表（民族別・言語別・宗教別人口構成グラフ、街並みの写真など）や資料（国民の祝日、地名など）から、日本ではあまり見られない多文化社会の特徴や課題を発見し、その多様性の中でどのように平和的共存を図っているかを考察しつつ、共に生きるために必要な配慮や考え方を見出す。これらの自分の考察を、根拠を持って説明・表現する。 (思考・判断・表現)
- ・シンガポールでの学びから、多様な文化や宗教を尊重しようとする態度を育む。さらに、自分と異なる背景をもつ人々と共に「より良く生きる」「より良い社会を築く」ために、まずは自分の身近なところに落とし込み、他者との協働や対話をしようという意欲を高める。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、シンガポールという多民族・多宗教・多言語国家を題材とし、文化的多様性を理解することを通して、生徒一人ひとりが「異文化理解」「共生」「寛容」といった価値観を自らの生活に結び付けて考えることをねらいとしている。誕生日パーティという身近なテーマを設定しながら、民族や宗教によって食文化や習慣が異なることを学び、異なる背景をもつ人々が互いに尊重しながら社会を築く姿を理解する。また、シンガポール修学旅行に向けた事前学習として位置付け、現地での異文化交流やディスカッション活動へとつなげる。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、第1学年の前半から自分が探究したい番号を「My SDGs」として選び、調べ学習を行ってきた。後半では、SDGsに先進的に取り組む企業・団体を自分たちで選んで調べ、第2学年で自らアポイントメントを取って訪問し、「My SDGs」学習を通して立てた「問い」を企業・団体にぶつけて学ぶなど、社会課題を「自分事」としてとらえる素地ができつつある。これらの学びのベースにはPBLがあり、生徒たちは学校内外のさまざまな人々とかわりながら、自分と異なる意見や考えに触れる時間を多く持ってきた。その結果、物事の「正解」が一つではないことや、多様な価値観が存在することにも気づき始めている。こうしたこれまでの学びの上に、第3学年で「異なる国の異なる価値観に触れる」体験をするにあたって、本単元が異文化理解をさらに深め、多様性についてより深く考えるきっかけとなることを期待する。

(3) 指導観

本単元では、生徒が自ら課題を見出し、情報を収集・整理・分析し、他者と協働して解決策を考えると

いう PBL のプロセスを重視する。教師は、学習の進行を一方向的に導くのではなく、生徒の発想を尊重し、問いの深まりや気づきを引き出す支援者としての立場を取る。また、PBL やそのほかのグループ活動を通して生徒同士の対話や多様な意見の共有を促進し、互いの違いを認め合う学年内の雰囲気醸成を図る。これらの事前学習を通して実施する修学旅行では、「自分とは異なる他者と共に生きるために、どのような態度や考え方が求められるのか」という「問い」を持ち続け、見たもの・触れたものすべてから学んで、自己を大きく変える契機としたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性…異なる価値観の人々が共生しているシンガポール社会の例から、自分とは異なる他者の価値観を尊重し、違いを認め合うことの重要性を考えること。シンガポール社会には、日本社会にはない文化的・宗教的特徴が見られること。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

他者の立場に立って考える力

自分とは異なる価値観の人がいることに思いを至らせて、自分も相手も嫌な思いをしないようにするにはどのような意識・態度が必要かを考える。

コミュニケーション力

事前学習では生徒同士が、また、修学旅行中にはシンガポールの学生と交流する中で、相手の意見を受け入れたり、自分の意見を受け入れてもらったりして、互いを理解しながら学び合う。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

グローバル・シチズンシップ

日本国内では意識しにくい、異なる文化が平和的に共存している姿を実際に見ることで、グローバル社会において自分はどうかを考える。グローバルマインドを醸成する一助とする。

世代内の公正

日本国内では意識しにくい、昨今の外国人旅行客の増加や各地で話題になる外国人問題（例えばクルド人、教育移住の中国系の人々、ホームタウン問題など）からも、将来世代である生徒たちは、未来の日本社会のありかたを考える上で多文化共生の視点を持つことは重要である。

・ 達成が期待される SDG s

4 質の高い教育をみんなに

10 人や国の不公平をなくそう

16 平和と公正をすべての人に

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① シンガポールの文化・宗教・言語の多様性について正しく理解している。 ② 資料やデータを活用して、情報を整理・比較している。	①シンガポールの地理・歴史・文化に関する基礎的な知識と資料から発見した課題をむすびつけて考えている。 ②自分の考えを適切に表現して発表したり、他者の考えを聞いたりし、比較検討している。	① 異なる文化や考え方に興味を持って、積極的に理解しようとしている。 ② 他者の意見や考えを尊重し、協働的に学ぼうとしている。

5. 単元の指導計画（全14時間）

時	主な学習活動	学習への支援	評価（△） 備考（・）
1	シンガポール修学旅行の目的と国の概要を知る（単元の導入） 5月のグローバル遠足で大使館やシンガポールに支店・拠点がある企業・団体などを訪問したグループが結果を共有する。 ・シンガポールはどんな国なのかな？ ・シンガポールと私たちのかかわりは？	映像・写真などを用いて興味関心を引き、これから自分たちが何を学びたいかの目標設定をさせる。 ＜グループワーク＞ 生徒による発表を聞いて、疑問に思ったことや考えたことをグループ内で話し合い、発表者への質問を促す。	△ ウ① △ イ② △ ウ②
2	民族・宗教・言語構成を資料で調べる	提示したグラフ・地図・写真の読み取りを支援する。	△ ア① △ ア②
3	エスニックグループ（中華系・マレー系・アラブ系・インド系）ごとの特徴を調べ、整理する。 ・共通点と違いは？ ・同じ理由は？ 違う理由は？	＜グループワーク＞ それぞれの民族になってロールプレイをして、共通点や違いを考えさせる。 発表の時間・質疑応答の時間を作る。 発表スライドの作成を支援する。	△ イ② △ イ① △ ウ②
4 5	「誕生日パーティを企画しよう」PBL ・1人ブレスト：多文化に配慮したプラン出し ・グループブレスト：チョイスと発表準備 ・プレゼン ・振り返り	＜PBL＞ トリガークエスションの提示とその補足をしますが、ヒントは与えすぎない。 ・参加者は異なる文化を持つ ・パーティ参加者全員が楽しめる ・お祝いする相手はイスラーム	△ イ① △ イ② △ ウ②
6	PBLの振り返りの総括から異文化理解の視点を整理する。 ・文化の違いからケンカにならないの？ ・実際に、シンガポールでは違う文化の人たちは仲良くしているの？ ・学校では宗教の勉強などはあるの？	全員のPBLの振り返りを一覧にして共有し、自分にはない視点から学ぶことも促す。 日本にいて調べ学習をしたが、シンガポールの実際はどのようなになっているかという疑問を持つよう促す。	△ イ② △ ウ① △ ウ②

	<ul style="list-style-type: none"> ・仲良くするためにはどんな態度や考え方が必要かな？ ・違う文化の人たちはケンカをしないように気を付けていることがあるのかな？ ・自分たち（日本）はどうなんだろう？ 	日本では自分たちはどのような考えで過ごしているかも考え、自分の態度・行動のもととなっている価値観への理解を深めておく。	
7 8	<p>「シンガポールの人に英語で質問しよう」PBL</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人ブレスト：質問を英語で考える ・グループブレスト：意見を比較検討し、より良い質問をつくりあげ、発表準備 ・プレゼン ・振り返り 	<p><PBL></p> <p>これまでの取り組みから「自分たちなりに調べたり考えたりしたが、本当のところはどうなのか」という自らの問いから、英語の質問を考えるように促す。</p> <p>※英語科・ネイティブ教員に協力を依頼し、指導にあたってもらう。</p>	<p>△ イ②</p> <p>△ ウ②</p>
現地	<p><現地>修学旅行でのシンガポール学生との交流会</p> <p>①学んできたことの発表</p> <p>②日本文化の紹介</p> <p>③グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンガポールの多文化共生の現実とは？ ・日本の多文化共生の状況は？ ・異なる価値観の人と接するときどんな態度や考え方で接するのが良いだろう？ 	<p>①ではシンガポールの国への理解や、日本とシンガポールの差異について代表者が発表する。</p> <p>③では、7・8時間目で用意した質問をする。相手からの質問も受ける。</p> <p>※価値観や思想・宗教に関する質問は失礼にならないよう十分留意する。</p> <p>※先方の学校にも趣旨を説明し、シンガポールの多文化共生から学びたいという点を強調する。</p>	<p>△ イ②</p> <p>△ ウ①</p> <p>ウ②</p>
現地	<p><現地>振り返り（ホテルで）</p> <p>グループディスカッションの振り返り</p>	その日のうちに振り返りシートを記入し、対話の感想と考えたことをまとめるように指導する。	△ イ②
9 10	<p>修学旅行のまとめをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①シンガポールで学んだ多様性と共生について自分の考えをまとめる ・②「自分事としての多文化共生」を考える ・③修学旅行に行く前と行く後での自分の考えの変化についてまとめる。 	<p>①マインドマップ等で思考の整理支援をする。</p> <p>②身近なテーマ（日本国内の外国人問題）や世界課題（戦争・対立・差別など）との関連を提示し、グローバルな視点でも考えるよう促す。</p> <p>③自分の価値観にどのような変化があったかを意識させる。</p>	△ ウ②
11 12	<p>修学旅行発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の成果を下級生に向けて発表する 	※その後、文化祭でもプレゼン・展示を行う。	<p>△ ア①・②</p> <p>イ①・②</p> <p>ウ①・②</p>